天沼一丁目五番所在民間信仰石造物

［登録年月日］平成八年一二月二五日
［種別］有形民俗文化財（信仰）
［名称］天沼一丁目五番所在民間信仰石造物
［点数］三基
［所有者等］**個人**
［所在地等］天沼一―五―一

天沼一丁目五番所在民間信仰石造物

三基の石造物は、青梅街道から北方へ二〇〇m程入った旧天沼村の時代からの旧道と思われる道に面して造立されている。向って右から庚申塔・地蔵塔・庚申塔の順で並んでいる。

右端の庚申塔は、総高一二九・〇cm、駒型浮彫（凝灰岩）で、元禄一一年（一六九八）天沼村住民によって庚申供養のために造立された。主尊は岩座に立つ六臂の青面金剛立像で、塔身の上部には日輪と月輪と瑞雲、岩座上に三猿を配している。また、三猿の下には願主の名が記されている。塔身最上部に刻されている種子バーウン（金剛界大日）は、庚申塔の種子としては大変珍しいものである。

中央の地蔵菩薩立像は、総高一三二・五cm、舟型浮彫（安山岩）で、宝永二年（一七〇五）に天沼村講中一五人によって造立された。塔身の蓮弁下には講員の名が刻まれている。

左端の庚申文字塔は、総高四四・五cm、角柱型（凝灰岩）で、享保一二年（一七二七）に天沼村の講中によって造立されたもので、正面・左右側面に願主の名が記されている。笠付庚申塔の軸部のみが残ったものと思われる。

三基の石造物は本区内では比較的古いものに属し、同時期の典型的形式を示すものである。また、造立時期が近い元禄銘と宝永銘の二基に、重複する願主の名が確認できることから、当時の天沼村の信仰や構造等を考える上で重要な資料である。

【文化財所在地】